

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 7月 29日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)

滋賀県守山市川田町230番地

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)

JNCファイバース株式会社 守山工場

常務取締役工場長 吉田尚喜

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項

第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例

第26条第1項

第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、事業者行動計画を策定 (変更)  
事業者行動報告書を作成 したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	JNCファイバース株式会社 代表取締役社長 柴田浩之
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	東京都千代田区大手町二丁目2番1号

1 事業者の概要

事業所の名称	JNCファイバース株式会社 守山工場					
事業所の所在地	滋賀県守山市川田町230番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	1	1	2	※ 産業分類・細分類名称を記載 化学繊維製造業
事業の概要						
従業員の数	252	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				
主要な設備	ボイラ	4	台	熱源設備	約55	台
	コンプレッサ	7	台	空気調和設備	0	台
				照明設備	2983	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始 年度	2019	年度	報告対象年度	2023	年度
	終了 年度	2023	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

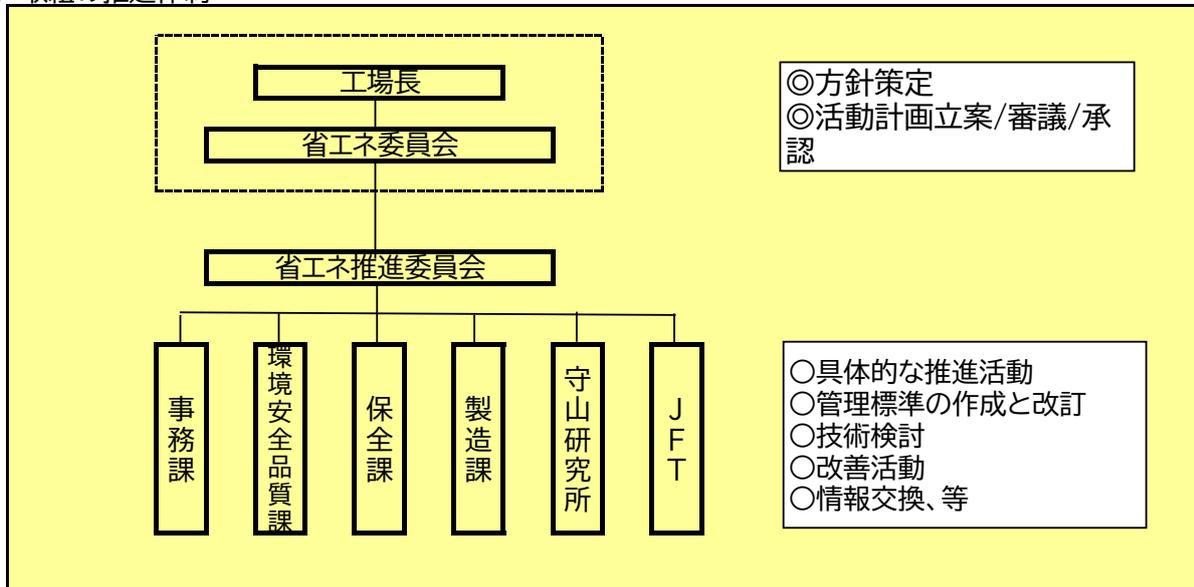
私たち(JNCファイバース(株)守山工場およびJNCフィルター(株)守山事業所)は、『地球環境の保全が人類の幸福のための条件である』を環境方針の基本理念に定め、環境に配慮した製品を皆様へ提供できるように努めてまいります。

同時に、私たちは地域に密着した環境保全活動を通じて、地域の方々と良きパートナーシップを築きつつ、低炭素社会の構築に協力致します。

私たちは、次の事項を推進し、基本理念の実現を目指します。

1. 事業活動のあらゆる段階において、環境負荷の低減に努め、継続的な改善・向上を図る。併せて、琵琶湖を控えた立地条件を認識し、環境汚染の予防に努める。
2. 省資源、省エネルギー及び廃棄物の削減を目指した製品開発及び製造に努める。
3. 製品及び技術の開発にあたっては、その開発から廃棄までの全ての段階に渡って、環境保全を確保する。
4. 教育・訓練を通して、全従業員の環境保全に対する認識と理解の向上に努める。
5. 環境保全に関する法令及び協定等の当工場が同意する要求事項を遵守する。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

JNCファイバース(株)守山工場は、事業活動を通して、工場の省エネ年間活動計画に基づいた活動を継続して取り組んでまいりました。

平成21年度からは、将来あるべき守山工場の姿を想定し、多方面から工場再編へ向けたアプローチを開始致しました。その中で、生産効率やエネルギー効率の低い生産ラインから効率の良い新たな生産ラインへの統廃合などを実施し、『低炭素社会にづくり』に取り組んで来ました。その概要は次の通です。

- 蒸気、圧空及び用水に流量計を設置した、運転制御の適正化
- 工場内照明のLED化及びソーラー発電外灯等の照明を採用
- 事務照明の不要時の節電およびPC省エネモードの使用
- 蒸気ラインや圧空ラインからの漏れを定期的に確認し、ロス削減対策を実施
- 変圧器の見直し(廃止等)
- 冷暖房の設備を更新しフロン種を変更、温度管理基準を策定し継続的に実施
- エネルギー・環境関係の外部講習会参加による省エネ意識高揚
- アイドリングストップ推進、グリーン商品購入の推奨による省エネ意識啓蒙

また、平成25年度から、守山工場敷地内に太陽光発電設備を設置してクリーンなエネルギーの提供に努めております。

## 4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	圧空設備電源消費(量)の削減を図ります。 ・運転制御の最適化の検討 ・圧空プロセスのロス(系外漏洩)削減	令和1年～5年度	該当工場の圧空漏れを調査と修理を完了
2	設備導入	高効率照明器具(LED化)へ転換して省エネを図ります。 ・屋内・屋外照明LED化(44.9% ⇒ 75%)	令和1年～5年度	228台更新設置、15kWh削減 74% LED化
3	運用改善	製造設備における放熱ロス箇所を見出して、適切に改善します。	令和1年～5年度	該当する間の蒸気配管保温材更新実施で1kWh削減。
4	プロセス改善	工場変台を見直します(廃止等)。	令和1年～5年度	休止設備用の変台を撤去した。
5	プロセス改善	生産効率とエネルギー効率の低い生産ラインを統廃合し、高生産効率と高エネルギー効率の生産ラインを構築していきます。	令和1年～5年度	継続検討中

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

## (3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組みによって、①と②に示した目標の達成に努めます。</p> <p>① エネルギー原単位 [(kL/t) = (原油換算量(kL))/(生産量(t))]が、前年度比で減少</p> <p>②過去5年度間の平均エネルギー原単位変化が、99.0%以下(1.0%以上の改善)</p> <p>ここで、「エネルギー原単位」の考え方は、次の通りです。          ◎温室効果ガス排出量は、製品の生産量に大きく左右されるため、生産量を原単位の指標(分母)としました。          ◎温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量の算定に当たっては、電気エネルギーに関するCO<sub>2</sub>換算係数が年度ごとに大きく変わるため、CO<sub>2</sub>原単位に替わって、原油換算値を反映させたエネルギー原単位を採用しました。</p> <p>「過去5年度間のエネルギー原単位変化」の算出方法は、次の通りです。          ◎過去5年度間のエネルギー原単位に関する前年度比を各々求め、得られた4つの前年度比を乗じたものを4乗根して算出します。</p>	<p>計画開始年度や前年度と比較して、生産量の低下に伴いエネルギー使用量も低下したため、温室効果ガスは削減している実績となったが、目標に対しては</p> <p>①エネルギー原単位は2022年度比で10.9%悪化。          ②過去5年度間の平均原単位変化は0.8%悪化。          となり結果、目標は達成しなかった。</p>

## (4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	(2023)年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	9,667	9,612	9,897	10,171	9,709	7,721
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	17,834	15,215	15,215	16,416	13,668	13,894
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	17,834	15,215	15,215	16,416	13,668	13,894
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>						
HFCs	t-CO <sub>2</sub>						
PFCs	t-CO <sub>2</sub>						
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー等原単位の推移		0.287	0.291	0.286	0.281	0.271	0.300

備考 「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			( )年度				
再エネ電気設備での発電量	kWh						
上記のうち自家消費量	kWh						

7 その他のCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに資する取組

## (1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			( )年度				
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 【調整後排出係数】	t-CO <sub>2</sub>						
【調整後排出係数】	kg-CO <sub>2</sub> /kWh						
特記事項							

## (2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			( )年度				
グリーン証書の購 入	t-CO <sub>2</sub>						
クレジットの購入	t-CO <sub>2</sub>						
特記事項		購入実績なし					

## (3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1				
2				
3				

## (4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年度 前年度の 保有台数	実績報告				
				( )年度				
	保有車輛の数	台						
	上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項								

(5) その他のCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	環境マネジメントシステム (EMS)	産業廃棄物を分別化し、再資源化する割合を70%以上を維持する。また、埋立量を全産業廃棄物に対して0.2%未満に抑える。	令和1年度 ～ 5年度	2023年度は再資源化率97.5%、埋立率0.01%で継続して目標を達成しました。
2	SDGs	ゴミゼロびわ湖岸清掃、びわ湖クリーンキャンペーン及び工場周辺の自治会河川清掃等に参加して社会貢献を実施します。	令和1年度 ～ 5年度	コロナ禍の自粛、縮小活動へは最小限の参加をし、5類移行により、育樹活動、湖岸清掃、河川清掃へ年間計画通りに参加して周辺地域と交流しました。
3	生物多様性	工場から排水する水質を維持し、排水先の河川や琵琶湖の環境維持に努めます。	令和1年度 ～ 5年度	『しが生物多様性取組認証制度』の二つ星に見合う水環境を維持する為、ピオトープ・排水の管理と水質の定期検査を継続し、令和5年度緑化優良工場として近畿経済産業局長賞を受賞しました。
4	環境マネジメントシステム (EMS)	不要照明消灯やエコドライブ推進などの環境に関する社内教育を実施し、外部環境講習会への参加も推奨します。	令和1年度 ～ 5年度	年間行事計画に沿い、懇談会等でEMSを含むSDGs活動を通じた教育を実施した。所属する環境協会の地域懇談会へ参加しました。
5	SDGs	フロン排出抑制法を遵守し点検を確実に行うこと、空調機のフロン種又は機種を変更することで、地球温暖化の低減に取り組みます。	令和1年度 ～ 5年度	フロンの簡易点検、法定点検と対象機器の見直しを実施し、新規、更新の空調機はHFC冷媒R32使用を継続しました。